別紙1

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差值平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		53.7	52.5	53	52	52.8
	本年度結果 偏差値平均	50.3	53.6	51.2	50.9	49.6	51.1
算数	前年度結果 偏差値平均		52.9	53.8	51.6	50.5	52.2
	本年度結果 偏差値平均	50.2	55	53.5	52.2	51.4	52.4
理科	前年度結果 偏差値平均				51.3	50.7	51
	本年度結果 偏差値平均			50.5	49	49.4	49.6
全体	前年度結果 偏差値平均		53.3	53.1	52	51.1	52.3
	本年度結果 偏差値平均	50.2	53.9	52.6	50.7	50.1	51.5

③全国学力·学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	
前年度結果	69	66	
(対県比)	(103)	(103)	
本年度結果	71	64	
(対県比)	(103)	(100)	

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立三原小学校

2 調査から明らかになった課題

2. 調査から明らかになった課題	
 ● 国品付 にも、ちん におおさけって伝え合う(35.3%)、 情報を選 伝え合う(40.7%)、 漢字の書き、考えや感想を持って伝え合う(35.3%)、 情報を選 び構成を考えて話す(41.2%)に課題があった。 ● 算数科では、かっこを用いた式・四則の性質(55.5%)、 平面図形の性質、面積(56.2%)、 分数(64.8%)に課題があった。 ● 理科では、磁石の性質(48.2%)、 参索池の働き(51.9%)、 物の溶け方と水溶液 	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科では「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題1-(61.8)、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる」問題2-(88.2)、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」問題2-(88.2)、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けて考えることや要約など、「書くこと」についての課題が大きい。 ●算数科では「伴って変わるこの数量の関係が、比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め力と答えや式を言葉を用いて記述する」問題1(3)(52.9)、「(2位数・1位数)のひっ算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができる」問題3(4)、「百分率で表された割合について理解している」問題4(1)(35.3)に課題があった。また、全国と比較して数値は上回ったものの図形の性質を利用した問題にも課題がある。
7学級、「かたさのある学級集団」が5学級、「不安定な学級集団」が2学級であった。	【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて) ●「ゆるみのみられる学級集団」が1学級、「親和的なまとまりのある学級集団」が9学級、「かたさのある学級集団」が2学級、「不安定な学級集団」が3学級であった。「かたさのある学級集団」が「親和的な集団」、「不安定な集団」に変化している。その他は、集団分析としての変化はなかった。 ●三次支援を必要とする児童が13人いる。

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介していただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組(どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
〇問い・全員参加を意識した授業改善により 授業力を向上させる。 〇児童が基礎的基本的な学力を習得できるようにする。(学期末テスト 1、2年:90点以上の 児童90%以上、3~6年:80点以上の児童80% 以上) 〇児童の学習意欲・期待感を向上させる。(児	「採山ケイ」を全校で実施する。(国語・算数・理料) 9月 ~学力分析的結果から類似問題を作成し、取り組み後、再度類似問題を解ぐことで定着度を確認する。 10月 ~ 採山タイム(じっくり)の時間にNIEや読み取り、間き取り問題に取り組み、感想文を書いたり伝 え合ったりする活動を月1回取り組む。(1か月の中で類似問題に取り組む週とNIEなどに取り組む過を設 とし、全体で取り組んでいく) 各学年の問題[にないた理科の家庭学型取り入れる、 第以程日、第次採日の学力結束では、409条末週の児童に重点をおき指導する。	【分析・研修:8月、校内研修:年間1人1回以上】 ②4月~ 【桜山タイム:週3回】【理科の家庭学習:通年(週末) ③4月~【各学期に1回以上】 ④4月~3月【週1回以上】 ⑤4月~【作成、見直し:学期に	・教師用アンケートによる肯定的評価80%以上(各学 期末実施) ・児童アンケートによる肯定的評価80%以上「学習を 楽しむことができた。」学習を通して成長したと思う」 (各学期末実施) ・OUにおける学習意欲得点が、28点以上の児童の割 各80%以上(各学級) ・園語科(漢字'学期末の平均)、算数科(学期末)の テスト 1・2年・90点以上の児童80%以上 ・NRTにおける課題のあった問題の正答率アップ(学 期末)(2か月に1回)
○学級におけるルールを明確にし、学校生活の環境を整える。 ○児童一人ひとりの役割を明確にし、居場所を実感できるようにする。	②係活動を明確化し、定期的に振り返る場を設定する。 ③児童における自治活動を積極的に取り入れていく。 ④グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニン		・QUの1回目と2回目の結果比較 (満足群の増加、不満足・要支援 の減少) ・QUIこおける三次支援の児童数 の減少